



てんかんき ふくしげんば
転換期の福祉現場にあって

かいりじちょう とみた たかず
ちいろば会理事長 富田 忠一

2003 年 4 月から障害をもつ人たちの日常の暮らしを支える制度が行政責任による措置制度から支援費制度へ変化し、規制緩和により様々な法人組織が参入できる仕組みとなり、「障害福祉サービス」と呼ばれるようになりました。

制度改正後もしばらくの間は、従来の社会福祉法人やかつての小さな福祉作業所が特定非営利活動法人格(NPO)を取得して運営する事業所が殆どでしたが、制度改正から 20 年余り経過した今日では、株式会社等の営利法人が運営する事業所が全体の 4 割を占めるまでになりました。毎日のように大手のコンサルタント会社から「利益のする事業所運営のためのセミナー」等の案内が届き、厚生労働省も社会福祉法人の事業規模を拡大して安定した経営基盤を整備するために法人間の合併等も推奨しています。

また、現場業務においては、ICT(情報通信技術)やロボット技術を導入して、事業効率の改善が求められています。深刻な人材不足の中にあっては効率的なサービス提供の工夫や人に代わる機械(ロボット)の導入によって、現場職員の負担を軽減し職場環境の改善を図ることは必須の課題です。AI(人工知能)も簡単に利用できるようになり、人が行うよりも仕事の精度が上がる部分もあるのは確かです。本法人でも会議の議事録作成に AI 技術を活用するようになり、わずかな変化ではあるものの職員からは好評を得ています。今後は、支援計画等の作成においても AI 技術を導入することで、モニタリングや更新時期を忘れてしまうミスの予防や計画内容の精度を向上させることも期待されます。

福祉事業もサービス業の一つとなった今日、それぞれの組織が経営努力を行い事業継続のための利益を追求する必要性は理解できるものの、利益を追求するために効率を優先するあまり、支援の難しい利用者や手のかかる利用者の人たちが疎ましい存在や排除の対象にはならないのか、誰ひとり取り残すことのない社会を目指すことと利益追求が並列で実現できるものなのか、事業規模の小さい本法人がいつまでこの業界に存在し続けられるのか、経営センスのない私には見通しすらつきません。コンピューターをはじめとした情報技術やロボット技術が進化した今日、様々な機器を利用して現場職員の負担を軽減することに異議を唱えるつもりは一切ありません。しかし、利用者のみなさんやそのご家族と長年に渡って向き合うことや、先輩職員から教わったこと、利用者のみなさんとの楽しい経験や数えきれない失敗経験から紡ぎ出されるはずのものと同等の支援計画などが簡単に機械で生成されることを喜ぶべきなのか、憂うべきなのかもわかりません。この仕事で食べていけるのか否かも分からず、40 年前に新参者としてこの業界に足を踏み入れた私も今となっては、アップデートの効かない「型落ち」な支援者になってしまいました。物忘れも多く、若い職員のみなさんには迷惑をかけることもしばしばのわたしですが、本年 6 月より本法人の理事長を拝命することになりました。この業界の進化に対応しかねることも容易に想像できますが、今後も多くのみなさんのご支援の下、微力ながら重責を担えるよう努力したいと考えています。これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

どうなってるの？人権学習

ちいろば会事務長 和田 泰子

ちいろば会の法人職員研修では、年度ごとにテーマがあり様々な人権問題や差別について学習します。先日夏季研修が実施されハンセン病問題について学びました。

私は、ハンセン病という言葉やハンセン病患者が強制収容されていたことは何となくは知っていましたが、私を知る様々な差別問題の中で一番遠い差別問題だったと感じました。それは私がハンセン病について知らないことが多く、それを自ら知ろうとしてこなかったからです。

社会にある様々な差別は、知らない、知ろうとしない、知る機会がないことから始まります。

私たち職員は、日々仕事の中で人権や差別と隣り合わせにあり、人権感覚を研ぎ澄ませる必要があるにも関わらず、私は単に見聞きした情報だけで判断していることも多くあったように思います。今回の研修で改めて知らないことの怖さと間違った情報を信じこんでいる自分を再認識しました。

そして、実はこの研修の少し前から、娘の人権学習について気になっていました。私自身は人権や差別の問題を学ぶ機会が与えられていますが、小学5年生になった娘から学校生活の話は聞くものの人権学習があったことや、その内容を聞くことがなかったからです。以前、娘のノートの切れ端に、補助犬や介助犬のことが書かれていました。話を聞くと、「補助犬とか、介助犬のことをみんなで勉強しましょうやって。」と言っていました。しかし、あまり深く理解しているようには感じられず、娘の心にも残ってないようでした。これには娘の傾聴姿勢に問題があるのか、授業内容に問題があるのか実際のところは分かりませんが、人権学習に取り組むならしっかりと学べる機会にして欲しいと思いました。

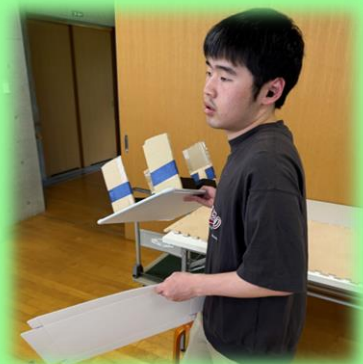
私の小学校時代は人権学習が多く、道徳の時間になると部落問題や障害者問題など様々な人権や差別について学んでいましたが、現在の学校における人権学習はどのような取り組みになっているのでしょうか。この疑問を持ったまま今回研修を受けたのですが、講師の先生が「今の教育現場での人権教育は、教師がその問題について知らない、人権教育に取り組む時間がない」と話されていました。また、研修のレジュメの中には、「やさしさ」や「思いやり」だけでは、差別はなくせないと書かれていました。正に、今の学校における人権学習はこの「やさしさ」や「思いやり」が強調されているようです。もちろん、「やさしさ」や「思いやり」は悪いものではなく必要だとは思いますが、それだけでは社会の様々な差別はなくなりません。だからこそ、子どもたちにも「ともに気づき・考え・行動しよう」という課題に取り組み、正しい知識と理解を持てるようになってもらいたいのです。

私は、子どもが生まれてからこれまで人の痛みやその人にある困難をしっかりと考えられる人に育ってほしいという願いを持って子育てしてきました。もちろんこれからもその気持ちは変わりません。だから学校教育における人権学習に期待がもてないなら、私自身が学び、知り得たことを親子で話し合う家庭での人権学習も必要なんだろうと感じています。

— ぼくも わたしも みんなが^{しゅやく}主役！！ —

— 梶谷 健人さんの場合 —

僕は今、ちいろば園でがんばっていることがあります。
ぼくがいる軽作業^{けいさぎょう}2階B班^{かいはん}では、「みさとはきもの」さんの
の仕事^{しごと}で箱を折る作業^{さぎょう}があります。前までは仕事^{しごと}のでき
あがり^{あがり}がわかりにくくて、いやになって作業室^{さぎょうしつ}から出て
いくことが多かった^{おお}です。



でも今は、クリップとバンド^{つか}を使って作業^{さぎょう}のすすみ具合^{ぐあい}が自
で見てわかるようになったので、あと、どれだけがんばればで
きあがり^{あがり}かもわかるようになったので、集^み中^{ちゅう}してとりくめる
ようになってきました。今では「箱折り^{はこおり}をしましょう」と職員^{しよくいん}
が言う^いと作業^{さぎょう}に必要なものを自分^{じぶん}で用意^{ようい}して作業^{さぎょう}を始め、
作業^{さぎょう}の終わりには作業^{さぎょう}に使った道具^{どうぐ}を元の場所^{もと}に片付け^{かたづ}てもで
きるようになりました。
これからも、グループのみんなと協^{きょうり}力^{りき}して作業^{さぎょう}に取り組める
ようにがんばります。

— 吉田 陽亮さんの場合 —

僕はこの夏^{なつ}、得意^{とくい}な事がひとつ増えました。
それは、新^{あた}しい道具^{どうぐ}の「草かき鋤^{くわ}」^{つか}を使って、雑草^{ざっそう}を
取り除^とくこと^{こと}です。
今までも耕^{いま}すための鋤^{くわ}やホウキ^{つか}を使う事^{こと}は好きで、
毎日倉庫^{まいにちそうこ}から出して使^{つか}っていましたが、どこで使う物^{もの}
なのかが分^わかり難^{にく}かったのですが、草かき鋤^{くわ}は使^{つか}えば
使うほど雑草^{ざっそう}が減^へっていくので、楽^{たの}しくてつい夢中^{むちゅう}
になってしまいます。



最近^{さいきん}は気温^{きおん}が高^{たか}くてすぐ^{つか}に疲^{すこ}れてしまいましたが、少し休^{やす}
でまた草かきをします。草かき鋤^{くわ}は2種類^{しゅるい}あるのですが、先^{さき}
の尖^{とが}っている方が好きで、鋤^{くわ}が地面^{じめん}に当^あたる感^{かん}覚^{かく}が気持ちいいで
す。たまには地面^{じめん}を掘^ほってしまう事^{こと}もありますが、リヤカーで
のアルミ缶^{かん}回収^{かいしゅう}や物^{もの}を運^{はこ}ぶ事^{こと}とともに、新^{あた}しい特技^{とくぎ}で皆^{みんな}と
の作業^{さぎょう}を頑^{がん}張^ぱっています。

がつ にち ど えいが じょうえいかい かいさい どうじつ か はしながしま な ら むす かい さんか
6月14日(土) 映画「あん」の上映会を開催しました。当日は、「架け橋長島・奈良を結ぶ会」からもご参加いただき、
びょうさべつ かんたん かいせつ
ハンセン病差別について簡単に解説もしていただきました。
がつ にち ど ほんほうじん しょういんけんしゅうかい びょうさべつ まな こうかいこうぎ かいさい
また、8月2日(土)には、本法人の職員研修会「ハンセン病差別に学ぶI」(公開講座)も開催しました。
じょうえいかい こうかいこうぎ さんか なか ふたり かんそうなど とうこう
上映会、公開講座に参加いただいた中からお二人に感想等を投稿いただきました。

えいが じょうえいかい さんか
-映画「あん」上映会に参加して-

せいしんほけんふくしし しらい あきこ
精神保健福祉士 白井 晃子

ねんどうえいがじょうえいかい さんか
2025年度映画上映会に参加させていただきありがとうございました。

この日は、雨がよく降る天気ではありましたが、ちいしば会のみなさまの上映会に向けての心意気とホスピタリティに心温まる一日でした。

わたしが、特に印象に残っているのは、映画「あん」の上映後、ちいしば会の利用者の方々が積極的に感想を述べ、会場にいるみんながその発表を聞き漏らさないように、耳を澄まして聞いていたことです。その日の会場の雰囲気は、普段から、ちいしば会のみなさまが一人ひとりを大切に、心ひとつに活動されている証なんだと思いました。

さて、映画「あん」ですが、何度観ても新しい発見がある作品です。今回は「ハンセン病差別に学ぶ」をテーマに映画鑑賞しました。まず、観るものの心を捉えるのは、オープニングの満開の桜です。しかし、その美しい桜は、佳子の「お墓を作れないわたしは、誰かひとり亡くなる度に、一本ずつ木を植えてきたのよ。・・・徳ちゃん、桜大好きだったから」というセリフで、病を患ったためにずっと「垣根の外に出られない」徳江の人生を観る者に突きつけます。エンディングでは、満開の桜の下で、どら春の店長の千太郎は新しい人生を歩む場面が描かれています。近隣の女子中学生相手に「なんかもっと好きなことやればいいのよ。だって自由なんだから、みんな」と言う徳江。「授かったのに産むことを許されなかった」徳江。そんな徳江にとって、桜はこの世の自由の象徴であったと思います。

また「・・・ねえ、あれとって、消毒する。消毒するやつ」と言って何度も手指消毒するどら春のオーナーの行動は、今でも続くハンセン病差別の現実を表現しています。そして、ワカナの視点でハンセン病差別について少しずつ学ぶことができるよう、映画は展開しています。

「ハンセン病差別に学ぶ」とは、「・・・小豆がみてきた雨の日や晴れの日を想像することです。どんな風に吹かれて小豆がここまでやってきたのか。旅の話を書いてあげること・・・(徳江のセリフ)」と同じです。声なき声に耳を澄ませることではないかと思っています。

こころ ひび ふか かんが えいが
-心にくさりと響き、深く考えさせられた映画「あん」-

にしやまときょうかいいん にしはま ならかず
西大和教会員 西浜 檀和

ちいしば会の地域公益事業として催された上映会で「あん」を観た。普段は事前に少し調べて臨むのが常だが、今回はどうしたことか準備ゼロだった。「あん」という題名は変ななあ？カタカナで「アン」なら女性の映画のようだが？今はやっている「アンパンマン」に関係しているのか？というレベルだった。

「私たちはこの世を見るために、ノ聞かために、生まれてきた。…」とのリード文を読んでももう一つピンとこなかった。結果論だがそれが逆に良かった。主人公の徳江(樹木希林)の指が映るシーンを見て、ハンセン病をテーマにした映画だとすぐ分かった。実に素晴らしい映画だった。

大上段に振りがぶって「ハンセン病差別は許さない!」という単純な描写ではない。これという目標もなく借金返済のために「どら春」で働く、雇われ店長の千太郎(永瀬正敏)の前に、ある日、美味しいあんを作る徳江が現れる。50年以上、ハンセン病療養所で暮らしてきた(否、「隔離されてきた」)彼女には社会に出て貢献したいとの思いが満ち溢れている。千太郎と徳江の「働く」ことに対する姿勢は真逆だと言っていい。「どら春」は大繁盛する。が、「どら春」のオーナー(浅田美代子)。憎たらしい役を熟演していたの「あの人、らい病らしいって…」との一言で、客は一気に来なくなる。噂はこのようにして拡がるんだなあと思ろしくなった。

千太郎の転機は「どら春」に入りしていた中学生のワカナ(内田伽羅)と二人で療養所に徳江を訪ねた頃から表れた。ラストには独立して「どら春」を立ち上げたシーンが出てくる。徳江と出会う千太郎は確実に変わったのだ。

ところで、「無言館」の館主は窪島誠一郎だが、彼は水上勉の息子で、彼が共同館主を内田也哉子(内田裕也と樹木希林の娘。夫は本木雅弘)に依頼した。伽羅の母が也哉子なので樹木希林の孫になる。伽羅のワカナ役はとてはまり役で、背景に風景をふんだんに取り入れた監督の河瀬直美も見事だった。

西大和教会の宣教の業として生み出された、ちいしば園の取り組みだから、上映会に教会の信徒も参加して学習を深めてほしかった。

ちいろばまつり

9/13 **土**
10:30 ~ 13:30

絵の本ひろば



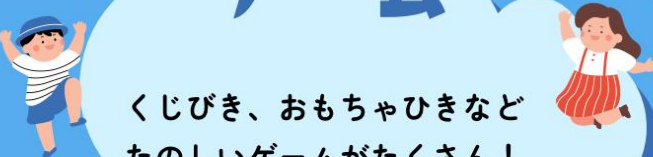
「絵の本ひろば」を開催します。
○△□パズルもありますよ。

レザークラフトのワークショップ



色とりどりの革をつかって
じぶんだけのかわいい
小物をつくろう！

ゲーム



くじびき、おもちゃひきなど
たのしいゲームがたくさん！

屋台



かき氷、やきそば、たこやきなど
おいしい屋台が
たくさん♪

お問い合わせ
ちいろば園
電話: 0745-72-1923
住所: 三郷町勢野北5-6-14
※王寺駅までの送迎あります要予約

2024年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

〈ちいろば園〉(生活介護) 定員58名、現員52名 3月末現在 年間稼働日数245日

① 利用者の状況

登録者数52名(4月より1名増員、1月1名逝去)

一日平均利用 48.3名 前年比 +1.7名、年間平均稼働率83.2% 前年比 +2.9%

② 作業活動

作業活動による年間売上9,450,028円 前年比 +2.0%(+185,660円)

利用者平均工賃5,966円/月 前年比 -10.6% -703円/月 40円/時

〈ちいろば生活支援センター〉(特定相談支援) 10月指定更新時に障害児相談支援は廃止

計画相談については、当年度も本法人サービス利用者と特に必要と認める依頼者のみに限定

〈にぬふあ星〉(共同生活援助) 定員25名、現員 25名 3月末現在

- ・にぬふあ星 定員6名 — 現員 6名(年度当初に1名白之出荘と入れ替わり)
- ・エンゼルハウス 定員5名 — 現員 5名
- ・ユイマールⅡ 定員2名 — 現員 2名
- ・白之出荘 定員6名 — 現員 5名(年度当初に1名にぬふあ星と入れ替わり)
- ・すみれ荘 定員6名 — 現員 6名(2025年1月まで5名、1月より1名入居)

【苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告】

① 苦情申立て

- グループホームからの騒音と支援内容への心配について
- グループホームへ入居に関して
- 給食提供の個別対応に関して

② 虐待報告

- 虐待報告とすべき事象は確認していないものの、不適切な対応を確認した際には、職員会議やケース検討、権利擁護委員会等で詳細を確認のうえ改善策の検討を行っています。
- 権利擁護委員会の開催状況

2024年6月26日、11月26日、2025年2月25日 年3回開催

- ・みんなの会で事前に話し合った内容について、直接、利用者から会議の場で発言してもらえるようになり、利用者の想いが参加者にダイレクトに伝わるようになりました。
- ・不適切な支援内容について具体的に内容をチェック表に記述してくれる職員が増えたことにより、それぞれの場面における経過や改善策も具体化して、改善に繋がるようになったと感じています。

③ 事故・ヒヤリ報告

- ・利用者間のトラブルによる怪我 3件
- ・利用者の飛び出し 1件

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自) 2024 年 4 月 1 日 (至) 2025 年 3 月 31 日

社会福祉法人名 社会福祉法人 ちいろば会

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	就労支援事業収入	5,897,000	6,078,778	△ 181,778
	障害福祉サービス等事業収入	211,269,000	208,136,502	3,132,498
	経常経費寄附金収入	414,000	414,000	0
	受取利息配当金収入	47,000	70,999	△ 23,999
	その他の収入	1,205,000	1,079,300	125,700
	事業活動収入計 (1)	218,832,000	215,779,579	3,052,421
	人件費支出	146,945,000	138,638,494	8,306,506
	事業費支出	18,550,000	17,629,269	920,731
	事務費支出	19,807,000	18,082,406	1,724,594
	就労支援事業支出	9,557,000	9,471,313	85,687
施設整備等による収支	支払利息支出	172,000	162,978	9,022
	その他の支出	451,000	405,350	45,650
	事業活動支出計 (2)	195,482,000	184,389,810	11,092,190
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	23,350,000	31,389,769	△ 8,039,769
	施設整備等収入計 (4)	0	0	0
	設備資金借入金元金償還支出	2,004,000	2,004,000	0
	固定資産取得支出	7,087,000	7,085,100	1,900
	施設整備等支出計 (5)	9,091,000	9,089,100	1,900
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 9,091,000	△ 9,089,100	△ 1,900
	その他の活動収入計 (7)	0	0	0
その他の活動による収支	積立資産支出	30,003,000	30,000,803	2,197
	その他の活動支出計 (8)	30,003,000	30,000,803	2,197
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 30,003,000	△ 30,000,803	△ 2,197
	予備費支出 (10)	0	—	0
		△ 0		
	当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 15,744,000	△ 7,700,134	△ 8,043,866
	前期末支払資金残高 (12)	137,197,825	140,544,898	△ 3,347,073
	当期末支払資金残高 (11)+(12)	121,453,825	132,844,764	△ 11,390,939

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書

(自) 2024 年 4 月 1 日 (至) 2025 年 3 月 31 日

社会福祉法人名 社会福祉法人 ちいろば会

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
事業活動増減の部	就労支援事業収益	6,078,778	5,802,210	276,568
	障害福祉サービス等事業収益	208,136,502	197,825,947	10,310,555
	経常経費寄附金収益	414,000	165,000	249,000
	サービス活動収益計 (1)	214,629,280	203,793,157	10,836,123
	人件費	139,302,629	142,023,261	△ 2,720,632
	事業費	17,629,269	16,909,014	640,255
	事務費	18,082,406	20,624,351	△ 2,541,945
	就労支援事業費用	9,450,037	9,264,360	185,677
	減価償却費	13,377,568	13,671,924	△ 294,356
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,487,323	△ 3,487,323	△ 0
サービス活動増減の部	サービス活動費用計 (2)	194,354,586	199,085,587	△ 4,731,001
	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	20,274,694	4,707,570	15,567,124
	借入金利息補助金収益	0	3,450	△ 3,450
	受取利息配当金収益	70,999	2,294	68,705
	その他のサービス活動外収益	1,079,300	1,402,010	△ 322,710
	サービス活動外収益計 (4)	1,150,299	1,407,754	△ 257,455
	支払利息	162,978	194,881	△ 31,903
	その他のサービス活動外費用	405,350	444,700	△ 39,350
	サービス活動外費用計 (5)	568,328	639,581	△ 71,253
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	581,971	768,173	△ 186,202
特別増減の部	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	20,856,665	5,475,743	15,380,922
	特別収益計 (8)	0	0	0
	固定資産売却損・処分損	1	0	1
	特別費用計 (9)	1	0	1
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 1	0	△ 1
	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	20,856,664	5,475,743	15,380,921
	前期繰越活動増減差額 (12)	189,727,669	184,252,520	5,475,149
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	210,583,333	189,728,263	20,856,070
	基本金取崩額 (14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)	0	0	0
その他の活動増減の部	その他の積立金積立額 (16)	30,000,594	594	30,000,000
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	180,583,739	189,727,669	△ 9,143,930

第三号第一様式

法人単位貸借対照表

2025 年 3 月 31 日 現在

社会福祉法人名 社会福祉法人 ちいろば会

(単位: 円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	145,320,977	158,814,747	△ 13,493,770	流動負債	19,435,736	24,586,513	△ 5,150,777
現金預金	111,126,279	125,411,319	△ 14,285,040	事業未払金	12,291,858	17,050,996	△ 4,759,138
事業未収金	33,000,952	32,405,851	595,101	1 年以内返済予定設備資金借入金	2,004,000	2,004,000	0
原材料	21,276	0	21,276	預り金	3,573	3,573	0
立替金	5,589	109,985	△ 104,396	職員預り金	159,506	1,215,280	△ 1,055,774
前払金	1,166,881	887,592	279,289	賞与引当金	4,976,799	4,312,664	664,135
固定資産	343,227,674	319,519,340	23,708,334	固定負債	25,564,060	27,568,060	△ 2,004,000
基本財産	239,926,665	246,838,761	△ 6,912,096	設備資金借入金	9,980,000	11,984,000	△ 2,004,000
土地	55,507,479	55,507,479	0	退職給付引当金	15,584,060	15,584,060	0
建物	184,419,186	191,331,282	△ 6,912,096	負債の部合計	44,999,796	52,154,573	△ 7,154,777
その他の固定資産	103,301,009	72,680,579	30,620,430	純資産の部			
土地	25,443,071	25,443,071	0	基本金	143,697,930	143,697,930	0
建物	1,077,480	1,166,040	△ 88,560	国庫補助金等特別積立金	59,084,227	62,571,550	△ 3,487,323
構築物	1,617,891	1,833,539	△ 215,648	その他の積立金	60,182,959	30,182,365	30,000,594
機械及び装置	214,704	253,834	△ 39,050	工費変動積立金	124,569	124,569	0
車輛運搬具	7	7	0	人件費積立金	5,506,520	5,506,410	110
器具及び備品	3,077,649	1,997,929	1,079,720	施設・設備整備積立金	54,551,870	24,551,386	30,000,484
権利	1,177,914	1,294,749	△ 116,835	次期繰越活動増減差額	180,583,739	189,727,669	△ 9,143,930
工費変動積立資産	124,569	124,569	0	(うち当期活動増減差額)	20,856,664	5,475,743	15,380,921
人件費積立資産	5,506,520	5,506,410	110	純資産の部合計	443,548,855	426,179,514	17,369,341
退職積立資産	10,499,254	10,499,045	209	負債及び純資産の部合計	488,548,651	478,334,087	10,214,564
施設・設備整備積立資産	54,551,870	24,551,386	30,000,484				
出資金	10,000	10,000	0				
資産の部合計	488,548,651	478,334,087	10,214,564				

※ 上記の事業報告、計算書類は簡略版です。ちいろば会ホームページから全文が閲覧いただけます。

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料（2025年4月1日～2025年6月30日）

ありがとうございました。

篠原範子、梅谷明子、松村國隆・明子、井上真理子、王寺町福祉作業所ポエム、米田守、和田泰子、新宮由土、上村美奈子、堀求基、宮田峰泰、奥田陽子、磯道香織、辰己真奈美、中西達也、由浅昌江、笠井草太、瞿曇留美、佐藤菜月、富田忠一、建石より子、清水靖子、永村實子・夏美、坂本友希、前田勇次、吉田智弥、前平正恭、辰巳普宣、小倉奈々、岡山定男、高見良平、堀内俊文、松本健一、濱野由利子、清水秀高、岡林千恵子、中島佳代子、岡本啓子、西田久美子、足立ひとみ、窪田義廣、不二門雅代、富田久江、平山恵理、長尾良子、梅野玲子、石川徹、網時子、西村好夫、吉岡由里子、阿波宏晃、北飯史子、益田典幸、黒川正通、西村周也、森川佳紀、吉田陽亮、村上一太一、藤原智久、山下淳一、木村朋子、小林万豈、楠本杉子、権利擁護支援センターななつぼし、社会福祉法人ひまわり、胡内まさみ、山田援、谷野裕悟、高島努、吉井紗英、太田章一、光田邦二、廣野和子、横山文吾、西村恭子、梶原拓馬、東応成、藪田晨、竹下由里子、大野美子、石原慎也、谷口英子、森谷宏三、斉藤剛

以上 敬称は略させていただきます。

※ ちいろばだよりの配送停止をご希望の方は、ちいろば園までご連絡ください。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

—社会福祉法人ちいろば会理事長交代のお知らせ—

去る、6月12日開催の定時評議員会の終結をもって、前理事長 大澤星一が任期満了に伴い、理事を退任したことにより、理事 富田忠一が新たな理事長に選任されました。しばらくの間は、ちいろば園（生活介護）、にぬふあ星（共同生活援助）、ちいろば生活支援センター（特定計画相談）の施設長との兼務となります。どうぞ、よろしくお願いします。

—ちいろば会クリスマスコンサート予告—

今年もちいろば会では、恒例の「クリスマスコンサート」を開催します。

日程は、12月13日（土）午後からの予定です。

内容は、チェンバロ奏者河野まり子さんとヴィオラ奏者片山晶子さんによる

「ヴィオラとチェンバロによるバロック音楽のひととき」です。

本格的なバロック音楽を身近に味わえる贅沢な時間です。

詳細が決まり次第、ちいろば会ホームページ 催し案内でお知らせします。

限定50席での開催になるので、事前予約をお願いします。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL：0745-72-1923 FAX：0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F